

《報告》

下関市で見つかったオオサンショウウオ

久志本鉄平

下関市立しものせき水族館, 〒750-0036 下関市あるかぼーと6番1号

はじめに

オオサンショウウオ *Andrias japonicus* (Temminck, 1836) は両生綱有尾目オオサンショウウオ科に属する大型の両生類で日本では岐阜以西の本州と四国及び九州北部に分布する(小原, 1978)。現在, 山口県内を流れる河川では県東部の錦川水系と小瀬川水系で生息が確認されている(村田, 2014; 久志本, 2016; 池田ら, 2020)。そのほかに島田川水系, 厚東川水系, 佐波川水系で確認されている(村田, 2009; 村田, 2011)。また, 2019年には阿武川水系で保護された個体がしものせき水族館に保護収容され新たに生息が確認された。県西部に位置する下関市(旧豊浦郡を含む)ではこれまでに報告はないが広島県廿日市市吉和付近で捕獲されたオオサンショウウオ1個体が木屋川水系の歌野川ダム上流に放流されたという情報がある(徳永, 私信)。

また, 京都府の賀茂川では中国原産のチュウゴクオオサンショウウオ *Andrias davidianus* (Blanchard, 1871) との交雑が深刻で, そのほか三重県, 奈良県で確認され(夏川, 2011; 関, 2016), 近年では岡山県, 広島県でも交雑種が確認されており, 交雑の問題が全国に広がっている。今回, 2016年, 2018年, 2022年に下関市内で相次いでオオサンショウウオが確認されたので報告する。

観察記録

【記録1】

場所: 山口県下関市菊川町の木屋川と田部川の合流地点(図1)

日付: 2016年11月18日

内容: 地元住民よりカニ籠内に入網したオオサンショウウオ1個体について情報提供を受け, 現地にて観察を行った。全長約80cmでカニ籠に入っていたためか吻端に白い傷跡が確認できた(図2)。写真撮影後, 混獲地点にて放流した。

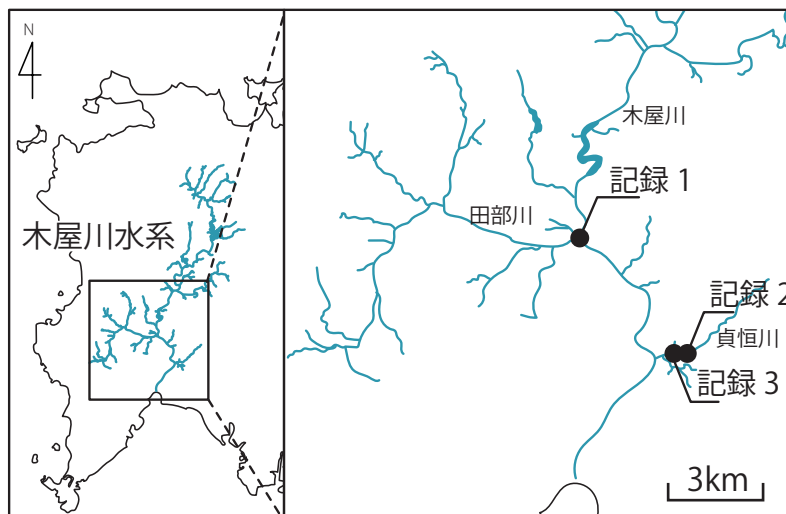


図1. オオサンショウウオの確認場所



図2. 2016年11月18日に木屋川と田部川の合流地点で混獲された個体

【記録 2】

場所：山口県下関市吉田の木屋川水系貞恒川（図 1）

日付：2018 年 12 月 13 日

内容：地元住民よりカニ籠内に入網したオオサンショウウオ 1 個体について情報提供を受け、現地にて調査を行った。個体は全長 89 cm，体重 4000 g，吻端に籠内で付いたと考えられる白い傷跡が確認できた。手足や尾ビレなどに欠損等確認できなかった。体色について頭部以外は全体的に黒色部が多い(図3)。計測後マイクロチップ（392145000431688）を左肩甲部に挿入し，DNA サンプルについて尾ビレの縁より採取し，採取後放流した。DNA サンプルは一般社団法人兵庫県自然保護協会にて分析を行った。



図3. 2018年12月13日に山口県下関市吉田の木屋川の支流貞恒川で混獲された個体

【記録 3】

場所：山口県下関市吉田の木屋川水系貞恒川（記録 2 の 475m 下流）（図 1）

日付：2022 年 10 月 5 日

内容：地元住民よりカニ籠内に入網したオオサンショウウオ 1 個体について情報提供を受け、現地にて調査を行った。マイクロチップリーダにより記録 2 と同一個体と確認された。個体は全長 87 cm，体重 3000 g で前回 2018 年から 1000 g 体重が減少し前回に比べ痩せが認められた（図 4）。また，右前肢の指が 2 本欠損していた。



図4. 2022年10月5日に山口県下関市吉田の木屋川の支流貞恒川で混獲された個体

#### まとめ

今回確認された個体（記録2）のDNA分析の結果から日本産であることが明らかとなり、さらに全国の生息地のサンプルとの遺伝的特徴を比較した結果、山口県産である可能性が示唆された。ただし、今回の記録1と2の個体を比べると頭部の模様が酷似し（図5）、同一個体であると考えられる。さらに、記録2, 3もマイクロチップにより同一個体であると確認された。本種は寿命が長く、体サイズも大きく、認知度も高いことから繰り返し発見される可能性が高いにも関わらず、3回の確認がすべて同一個体であったことから木屋川水系での個体数はごく限られたものだと言える。したがって、木屋川水系の個体は本来の分布ではなく山口県内の別の河川から移入されたと考えるのが妥当だと思われる。今後も同河川内でオオサンショウウオが確認されることが想定されるが、移入の可能性が高いため個体識別を踏まえた記録が重要である。そのため、オオサンショウウオ発見時には頭部の模様の記録またはマイクロチップを用いて個体識別を行うことが重要である。また、記録2から記録3までの約4年間弱の間に体重が1000g減少し生息環境的に適していない恐れもある。

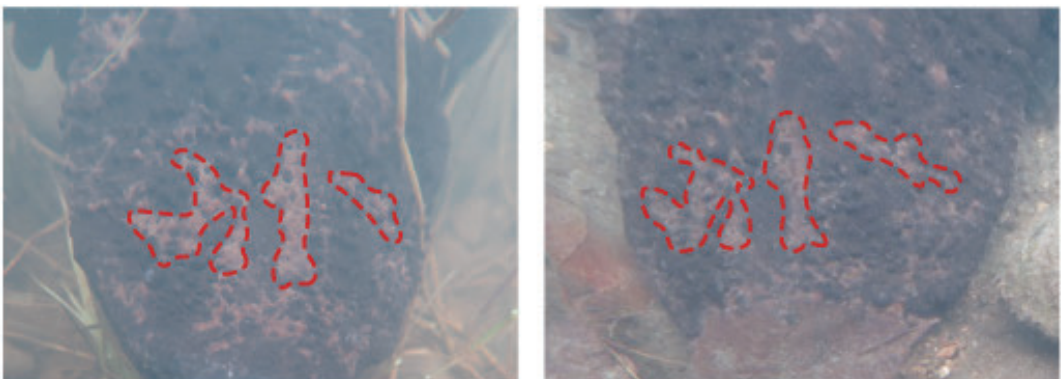


図5. 頭部の模様比較

左：2016年11月18日撮影，右：2018年12月13日撮影。

#### 謝辞

今回の調査を行うにあたり下関市教育委員会教育部文化財保護課の濱崎真二氏には国指定特別天然記念物オオサンショウウオの個体調査に係る現状変更許可手続きにおいて助言を受けるとともに調査協力をい

ただいた。徳永浩之氏ならび高川学園教諭の村田満氏は貴重な情報をご教示いただいた。また、下関市立しものせき水族館の魚類展示課スタッフである、園山貴之氏、玉井健太氏、飯島卓也氏、川島登史宗氏と元魚類展示課スタッフの柿野敦志氏には調査協力をいただいた。ここに記し感謝の意を表する。本報告を書くにあたり研究の後押しをしてくださった下関市立しものせき水族館の石橋敏章館長、立川利幸副館長の両氏に深く感謝する。

#### 引用文献

- 池田誠慈・宗像優生・佐藤 賢・三浦 昂・橋詰 宰・友田 浄・若林なつき・桑原一司・清水則雄・大川博志 (2020) ダム上流の湿地を流れる小河川に生息するオオサンショウウオ個体群。広島大学総合博物館研究報告, **12**: 1-18.
- 久志本鉄平 (2016) 錦川支流におけるオオサンショウウオの産卵時期。山口県の自然, **76**: 11-13.
- 村田 満 (2009) 私案, “山口県におけるオオサンショウウオの保護管理指針”。山口生物, **31**: 6-26.
- 村田 満 (2011) 島田川 (岩国市) のオオサンショウウオ。山口県の自然, **71**: 17-20.
- 村田 満 (2014) 山口県のオオサンショウウオ。九州両生爬虫類研究会誌, **5**: 62-65.
- 小原二郎 (1978) オオサンショウウオ, 第2回自然環境保全基礎調査, 動物分布調査報告書 (両生類・爬虫類), 全国版, 41-45pp..
- 関 慎太郎 (2016) 「野外観察のための日本産両生類図鑑」, 緑書房.
- 吉川夏彦 (2011) オオサンショウウオに迫る外来種問題。人環フォーラム, **29**: 36-37.